

2019 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [神戸大学附属中等教育学校] 担当教諭名 [岩見理華・島安津子・柴田美帆子・大森正堂]
 (生徒会グローバルキャリア・コミッティ(GCC)「ユネスコ・アートマイルチーム」 2-4年生 27名)
 相手国・地域 [サウジアラビア]
 海外学校名 [Al Hussan International School Al Knobar] 担当教諭名 [Saira Muhammad]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	放課後等の課外活動	ランチミーティング、自己紹介動画制作、相手校とのテレビ会議、テーマ学習、構図の検討、壁画の制作	約40

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	「ジェンダー平等」と「持続可能なまちづくり」を目指して
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	大震災を経験し、災害に強い持続可能なまちづくりを目指す神戸、教育や仕事に対する男女格差が大きいサウジアラビア。それぞれの国の抱える問題を解決するために、私たち若者にできることは何かを考え、未来のあるべき姿を壁画に表現しました。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> 役割(フォーラム、デザイン班等)ごとにリーダーを決め、メンバーが集まりやすい昼休みに生徒主体でランチミーティングを行って活動の計画を立て、作業を進めることができた。 前年度参加者が活動をリードし、制作活動を円滑に進めることができた。 文化だけでなく、お互いの国の抱える課題について理解する態度を育てることができ、英語によるコミュニケーションへの意欲も高めさせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、相手校がイスラム系国際学校で、ラマダンの時期等、長期休業日が多かったため、直接交流する時間が限られていた。このような場合の交流手段について生徒同士が主体的に関わることができるような方策を検討することが必要であると考えられる。 新型コロナウイルス感染症の影響で、完成壁画到着直後に学校が閉鎖となってしまった。学校再開以降に、参加生徒、学校全体での完成壁画の鑑賞や振り返りをどのように行うかが課題である。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちにとってサウジアラビアは遠い国で、サウジアラビアが抱える女性に対する差別の問題も「他人事」であった。交流活動中、相手校の女子生徒から具体的に説明してもらうことによって、「ジェンダー平等」の問題を自分に引き寄せて考えることができた。また、生徒たちが生まれる前に起こった神戸の震災について、相手に伝えるためにリサーチすることを通して理解を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師にとってもサウジアラビアは、やはり遠い国で、女性差別問題に関しても、相手校の教員からの説明を聞くまでは、それほど切実なものであるという認識はなかった。壁画のテーマや、壁画に描くものについて、折にふれ相手校側のこだわりを感じることで、徐々にサウジアラビアの「ジェンダー平等」への願いを理解することができた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	7月 9月 10月	学校紹介、自己紹介動画作成準備。 教員同士のスケジュール調整。 生徒の自己紹介文、動画のフォーラムへの投稿。 テレビ会議で互いの国の文化を紹介。	動画撮影には、iPadを使用した。友だち同士で練習をして納得するまで何回も取り直すなど熱心に取り組む様子が見られた。	昼休み 放課後 4
共有 テーマ学習	10月	テレビ会議（両校による自己紹介及びジェンダー平等と持続可能なまちづくりについて、相手校によるプレゼンテーション）。本校による上記2つのテーマに関するプレゼンテーション動画のフォーラムへの投稿。	相手校は国際学校であるため、話す英語がとても流暢で早かったが、積極的に耳を傾け、質問にも必死に答えようと努力していた。お互いメッセージが伝わったときはとてもうれしそうだった。	昼休み 放課後 2
融合 メッセージ作成	11月	壁画の構図についての両校生徒によるフォーラムでの話し合い。壁画のデザイン決定。	相手側の意見も尊重しながら、構図を決定していくプロセスを通して、文化の異なる相手と協調することの大切さを実感した。	昼休み 放課後 5
創造 壁画制作	12月 ～ 2月	プロジェクターを使用した下絵制作、色付け作業。フォーラムに本校側完成写真を投稿。相手校も制作の様子、完成作品の写真を投稿。	昨年度の参加生徒をリーダーとして、ほとんど生徒だけで自律的に制作を進め、学年を越えた協力関係を築くことができた。	放課後 25
評価 振り返り 自己評価	2月 4月 以降	本校の「授業研究会・SGH 報告会」において、代表生徒がアートマイルの取組についてポスター発表を行った。2月末に相手校から完成壁画が到着。直後に新型コロナウイルス関連で学校が閉鎖。新学期以降に活動の振り返りを行う予定。	研究会には約350名の参加者があり、他校の先生方からの質問にも答えることができた。新学期以降に全校生徒に対しても完成壁画を披露し、しっかりと前年度の活動の振り返りができるようにしたい。	昼休み 全校集会 (予定) 4

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	4	動画作成やテレビ会議で発表する日本文化の内容について熱心に調べたり実演したりする等、見せ方に工夫を凝らしていた。また相手校からの質問に対して資料を作成してフォーラムに掲載した。
異文化を理解する力	4	テレビ会議での相手校の説明（イスラムの文化）に興味を持って耳を傾けていた。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	3	日頃の授業や課題研究で情報機器の使用には慣れており、本活動を行ったから情報活用能力がついたと評価することはできない。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	4	相手校が国際学校であり、英語能力にかなり差があったが、相手校から送られてきた資料やテレビ会議では、英語による情報の理解に積極的に取り組んだ。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	サウジアラビアの抱える「ジェンダー平等」についての課題を切実なものとして捉えることができた。
主体的に考え行動する力	5	フォーラム担当や、デザインチーム等、役割を決めて生徒が主体的に打ち合わせの会議を運営したり、壁画制作作業を進めたりすることができた。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	5	相手側の意見も尊重しながら、共通のテーマに沿うようなデザインになるよう、一生懸命に考えていた。テレビ会議やフォーラムで、丁寧に説明し、合意を得ることができた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	お互いの壁画に込めた思いを絵に表現することができた。壁画の背景にお互いの文化を特徴づけるもの(花や建物等)を考えていた。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	3	新型コロナウイルス関連の学校閉鎖で、3月末時点ではまだ完成作品の鑑賞と活動の振り返りができていない。